

大阪大谷大学教育福祉学部社会福祉士 受験資格課程卒業生の現況調査

農野 寛治 神部 智司
船本 淑恵

キーワード：社会福祉士資格、卒業生現況調査

本報告は、社会福祉士国家試験受験資格課程卒業生現況調査の報告を中心に、社会福祉部会の取り組みを整理し、今後の課題を示したものである。

はじめに～現況調査実施の背景～

大阪大谷大学教育福祉学部は、前身の大谷女子大学の時代に（1999年度）、社会福祉専修コースを設置し、そのコースに40名定員の社会福祉士国家試験受験資格課程を開設した。2008年度は大谷女子大学として最後の卒業生を送り出し、課程卒業生の総数が231名となっている。2009年度は課程開設から11年目を迎え、2回生以上81名が在籍し、社会福祉士資格取得に向けて学んでいる。昨今は、社会福祉士でなければ就けない職種も指定されてきており、専門資格の取得は社会福祉現場をめざす者にとっては重要な課題となっている。本学においても、課程学生の9割は卒業年度に受験し、また、社会福祉士試験の受験や合格状況が養成校別に公表されてからの既卒生集計をみると、2003年の第15回試験以降、毎年受験している。

2007年に社会福祉士及び介護福祉士法が改正され、2009年度の入学生から社会福祉士養成課程のカリキュラムが変わり、同時に社会福祉士試

験科目も変更になった。2010年1月の第22回社会福祉士試験から、新しい試験科目での実施が決まっている。このような変更は旧カリキュラムで受験資格を取得した者に負担を強いることになる。試験科目数だけを見ても、13科目から19科目へと6科目増加している。また、学ぶべき内容にも変更がある。そのため、新科目に加えて、これまでのカリキュラムで不十分な内容については、改めて学習をしなければならない。

いずれの養成校においても同様であるが、本学でも専門資格を持ち、社会福祉の現場で活躍する人材の養成をめざしている。そして、従来から試行錯誤しながら課程学生を対象に専任教員が試験対策を実施してきたが、今回の試験科目の変更を受けて、旧カリキュラム課程を卒業した者に対して新カリキュラムの試験科目等を学ぶ機会を設け、大学として支援をしていくべきではないかと担当者間で意見が一致し、新カリキュラムに対応した受験対策の実施が喫緊の課題であることから、今年度は受験対策講座の開催をめざすことにした。

そこで、卒業生に向けての案内に郵送料などが必要となるため、学部に協力を依頼し、費用支出の承認を受けた。初めての試みであり、受講希望者数の予想がつかないため、卒業生の現況調査を

行い、受講希望者に対して詳細を案内するという段階を踏むことにした。

調査の概要

調査主体：大阪大谷大学教育福祉学部社会福祉部会（農野寛治、神部智司、船本淑恵）

調査目的：社会福祉士受験資格課程卒業生の現況把握として下記の4点を尋ねた。

- ①就労の有無と就労先、職種
- ②社会福祉士資格取得の有無
- ③対策講座受講希望の有無
- ④大学への意見・要望等

調査実施時期：2009年5月～6月

調査期日：2009年4月1日

調査方法：郵送調査（卒業生住所については、同窓会の協力を得た。）

倫理的配慮：同窓会から宛名ラベルで卒業生住所の提供を受け、発送に使用した。返送されてきた封筒や調査用紙は、日常的に鍵をかける場所に保管し、学外に持ち出すことがないように申し合わせている。また、入力データは一箇所管理し、目的外使用や学外への持ち出し禁止を申し合わせている。

調査の結果

卒業生の人数は231名（2009年4月1日現在）であるが、同窓会に住所が登録されている217名に調査用紙を送付した。回収数は67通であり、回収率は30.9%であった。

表1 回収状況

卒業生総数	231名
アンケート送付数	217通
宛先不明返送	4通
未返送	146通
返送	67通
回収率（67/217）	30.9%

就労状況は、「就労している」が57名で85.1%が就労していた。就労先をみると、「社会福祉関係」での就労が、32名56.1%であり、半数以上が保育・福祉サービスを提供している事業所であった。

表2 就労状況

	回答数	%
総数	67	100.0
在職	57	85.1
無職	10	14.9

表3 在職者の就労先

	回答数	%
在職者総数	57	100.0
社会福祉関係	32	56.1
児童	3	5.3
高齢者	14	24.6
障害児・者	5	8.8
社会福祉協議会	1	1.8
保育所	9	15.8
医療法人、NPO法人等	6	10.5
公務員	2	3.5
幼稚園	2	3.5
特別支援学校	1	1.8
その他（民間企業等）	14	24.6

職種のうち、社会福祉関係の職種でみると、「介護職員」「保育士」がそれぞれ11名と一番多い。「公務員」の2名は、福祉事務所と子育て支援の部署と記載があり、社会福祉に関係する業務に従事している。

次に社会福祉士試験を受験したことが「ある」人は61名、9割が受験したと回答している。そのうち17名が複数回受験している。一番多い受験回数は5回であった。社会福祉士資格を「取得した」が15名24.6%であり、うち12名が卒業年度受験での合格であった。

今後、受験を希望しているかという問いに対して、40名76.9%の卒業生が「ある」と回答して

表4 在職者の職種（複数回答あり）

	回答数	%
在職者総数	57	100.0
公務員	2	3.5
指導員	3	5.3
支援員	5	8.8
相談員	3	5.3
介護職員	11	19.3
社協職員	1	1.8
保育士	11	19.3
その他福祉関係	2	3.5
幼稚園教諭	2	3.5
特別支援学校教諭	1	1.8
その他	17	29.8
無回答	1	1.8

表5 国家試験受験の有無

	回答数	%
総数	67	100.0
有	61	91.0
無	6	9.0

表6 受験者の受験回数

	回答数	%
受験者総数	61	100.0
1回	41	67.2
複数回	17	27.9
無回答	3	4.9

※最高受験回数5回

表7 社会福祉士資格取得の有無

	回答数	%
受験者総数	61	100.0
合格	15	24.6
不合格	46	75.4

※卒業年度受験で合格12名

いる。また、本学で受験対策講座を実施した場合の受講希望有無を尋ねると、23人が受講希望ありとの回答をしている。しかし、受講希望無しでも、「資料が欲しい」「日程が許せば」「遠方なの

で参加が難しい」等の記述があり、希望があっても物理的な困難から希望無しの回答をしている者もみられた。

表8 無資格者における今後の受験希望の有無

	回答数	%
無資格者総数	52	100.0
有	40	76.9
無	11	21.2
受験経験有の者	6	11.5
無回答	1	1.9

大学に期待すること、その他意見等への自由記述は、半数以上の35名が回答している。内容を類型化すると、対策講座への期待、受験対策への要望、現役時代の対策講座への批判、受験勉強方法の提案、情報提供や学習の機会について、近況報告、その他に分けることができる。詳細は、本稿の最後に添付資料として載せている。

表9 自由記述

	回答数	%
総数	67	100.0
有	35	52.2
無	32	47.8

調査のまとめ

卒業生への現況調査は、課程開設以降初めての試みであり、回収状況を予想することが難しかった。一般的な郵送調査で30%という数字は、評価できる回収率といえるが、本学卒業生、しかも課程という対象を限定した調査ということから考えると、低いと解釈するのが適切といえる。このこと真摯に受け止めなければならない。しかし、返送されてきた調査用紙をみると、自由記述の記入が多く、それ以外でも余白に様々な意見が述べられており、卒業生の要望と合致していた部分もあったと推測できる。

今回の現況調査から卒業生の姿を描くと、社会

福祉関係の事業所で就労し、保育や高齢者介護の現場職員、あるいは相談援助職として勤務している姿が浮び上がってくる。一方で、民間企業や教育現場に勤めている者もいる。社会福祉関係と民間企業や教育現場等での就労割合は拮抗している。

社会福祉士試験について、多くの卒業生が一度は受験を経験し、複数回受験にもみられるように、資格取得を希望している卒業生も多いことが確認できた。そのような中、本学で行う受験サポートに一定の期待を寄せている。

社会福祉部会の取り組みの現状と今後の課題

2009年4月に1号館2階個人研究室の並びに「福祉実習支援室」を開設し、実習指導、資料閲覧・検索、個人学習、情報提供に利用できるよう整備した。平日の授業時間帯に開室しており、課程学生が自由に利用できる。しかし、支援室に教職員が常駐しておらず、相談や質問は担当教員が随時対応している状況である。今後、利用状況を把握し、資料の整備・充実を図り、学生に積極的な活用を促していく。

2009年度の夏季長期休暇中に、社会福祉士国家試験受験対策講座を実施した。8月29日（土）、30日（日）、9月5日（土）の3日間で、新カリキュラム新設科目の中から6講座を専任教員が分担し、現役学生と卒業生を対象に合同で開催した。また、9月6日（日）は民間企業が提供している全国模擬試験を実施した。いずれも会場は、本学である。卒業生の申し込みは10数人であったが、当日の出席は5名程度であった。また、3回生以上に受講を勧めていたことから、3、4回生合わせて約30名が出席した。その後、希望者約30名に対し、当日配布資料の提供を行っている。現況調査からもわかるように、資格取得を希望している卒業生も多いことから、今後も何らかの形で受験のサポートは必要であると考えている。しかし、社会人の卒業生を対象とした講

座は土日に限定され、しかも、シフト勤務の職種が多いので、一ヶ月以上前の案内が必要となる。日程を設定することは容易ではないが、担当者で相談しながら、今後も継続して開催できるよう工夫していきたい。

今回の現況調査実施の案内を大学ホームページに掲載した。その効果は把握できないが、さまざまなメディアツールを通じての案内、情報提供は今後も必要であると考えている。

卒業生との連絡は、担当教員が元ゼミ生に対して個別に行ってきたが、社会福祉コースの大学メールアドレス（shafuku-c@osaka-ohtani.ac.jp）を取得し、全担当教員が対応できるよう整備した。なお、メールアドレスは、現況調査時に案内している。

社会保障・社会福祉の制度・政策は年単位で変化しているので、情報収集を欠かすことができない。加えて、現場職員のスキルアップが常に求められる実態がある。そのための研修等は、専門職団体なども行っているが、それとは別に卒業生向けの学習機会を大学として提供していくことも養成の一環であるといえる。現況調査の中でも、要望としてあがってきているので、担当者の可能な範囲で実施を検討していきたい。

今後は、対策講座の開催だけではなく、現場で働いている卒業生相互の交流を図り、ネットワークを構築し、協力・連携体制のひとつとしたい。そのために、卒業生に足を運んでもらえるような仕組みをつくっていかねばならないだろう。他の養成校の取り組みも参考にしながら、アイデアを練っていきたい。

おわりに

調査に協力してくださった卒業生の皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、今回の取り組みを認めてくださった教育福祉学部の先生方に改めて感謝し、何よりも実務面で負担を

かけてしまった教育福祉学部の共同研究室の助手の方々には、深くお詫び申し上げたい。また、多方面からの様々な助言も、多くの方に支えられているという実感を持つことができた。今後は、今回の成果と反省を糧にして次の課題に取り組んでいく。

現況調査自由記述（記述内容を再構成し、主旨を変えないよう加筆・修正を行っている。）

対策講座への期待

- ・ 講座を開いていただけるとのこと期待しております。
- ・ 講習は受講できるので知らせてもらえたら嬉しいです。
- ・ 受験対策講座などあれば、参加したいです。
- ・ 国家試験の内容が変わることなので、変更になった部分を大学で行う機会をつくってほしいです。
- ・ どう勉強したらよいか悩んでいたのので、国家試験受験対策講座に受講できれば心強いです。
- ・ 勉強の時間をなかなか確保できず、講座が自分の学んだ大学であると参加しやすく、良い刺激になります。
- ・ 試験対策講座があれば、卒業してからも勉強しやすくいいと思います。
- ・ 社会人になってから、学生の時みたいに勉強する時間をつくるのが難しいですし、学校で学ぶことによって、新しい情報が得やすいと思います。少しでも多くの学生が合格することによって、多くの知識を得、誰かの役に立ち、自分にとってもプラスになるのではないのでしょうか。
- ・ 国家試験を受ける機会があれば、対策講座や模擬試験を受講、受験できることはとてもありがたいことだと思います。
- ・ 卒業生が多数いる中、こういったフォローをし

ていただけることは何かと安心します。実現されること強く願います。

受験対策への要望

- ・ 来年から科目が変わるので、くわしく聞きたい、知りたいです。
- ・ 仕事で必要となるので、サポートしてほしいと思っています。
- ・ 仕事をしながら勉強は本当に大変なので、勉強するポイントや法令の改正の分かりやすいまとまったものがあればいいなと思っています。
- ・ 受りたい気持ちはあるのですが、遠いので。
- ・ 遠方に住んでいる者にとっては利用しづらい面もあると思います。
- ・ 参加したいのですが、休みが不定期のため、ネット通信とか郵送などの参加受講も考慮していただければ幸いです。
- ・ 講座の受講が無理なら資料がほしいです。
- ・ このコースを卒業した人は、福祉関係等、勤務形態が複雑で受講したくてもできない人が多いのではないかと思います。できれば、通信講座＋数回の受講があれば有難いと思います。
- ・ 受講を希望したいが、結婚し大阪にいないので難しい。メールで問題を受け取ることもできれば子育て中でも可能かなと思います。
- ・ 大学に求めているのは、遠方で大学まで行くことができない場合や講座を開講する際に都合がつかない方がおられた場合、インターネットやメールを通じ、講義内容等の情報を得られれば便利かと思います。
- ・ 家から学校が遠いので、資料とか送ってほしいです。
- ・ 国家試験対策講座等で使用した問題集や資料を送付していただくことは可能でしょうか。
- ・ 模擬試験の問題と解答をいただくことはできますか。仕事の都合でいろいろ迷っていますが、新しいカリキュラムの傾向を知りたいので、で

できれば用紙だけいただければと考えています。

- ・福祉学専攻の学科ではないので、福祉職についた後、周りの基礎力との違いが出てきやすいと思います。職場は、新卒といえども、即戦力が求められるので、実践力のつくような講義を期待します。

現役時代の対策講座への批判

- ・私たちの時は対策講座といってもただの自習でしたので、やる気を起こして下さったり等もう少し考えていただけたら嬉しかったです。
- ・もっと深い内容を教えてほしかった。習ったことが全然出なかった。
- ・私が学生の時は、社会福祉士国家試験のための授業は自主学習というか、本人まかせだったので、自主的、積極的に勉強できるように、先生がリードして下さる授業であってほしかったです。もう少し先生が介入して下さればと感じておりました。

受験勉強方法の提案

- ・国家試験の試験問題の答え合わせを大学で行う機会を作り、不正解の部分はどのように間違っているのか、自分がどのように不正解を選んでしまったのかなど試験後のアフターフォローが必要ではないでしょうか。
- ・試験に関しては問題を何度も解くことが必要だと感じました。
- ・私は4回生の時に受験したのですが、授業以外でも過去問に取り組む試験対策を先生方が提案してくださいました。受験する生徒が集まり勉強する機会があったことは、刺激を受け、試験に対する意識も高まり、非常によかったと思います。
- ・普段の大学の講義のような形式ではなく、一問一答形式でやってもらえると楽しく覚えられると思います。“勉強しなければならない状況”

をつくることがとても大事だと思いました。

情報提供や学習の機会について

- ・対策講座は、すでに資格を取得している場合、受講することができないのでしょうか。
- ・最新情報を教えてもらえたりしたら嬉しいです。
- ・社会福祉とは異なるところで仕事をしていると色々と情報が入ってこないのが現状がわからない。
- ・情報等ございましたらお知らせいただけると幸いです。
- ・福祉関係で再就職を検討しているので、引き続き福祉情報を教えていただきたいです。
- ・実際に働いている方に講師に来ていただくなど“現状”を伝えて（教えて）欲しい。
- ・社会福祉主事の資格で働ける職場はけっこうあるのでしょうか。

近況報告

- ・現在、幼稚園で働いておりますが、社会福祉コースにいて学んでいたこともあり、自分のやりたいことはやっぱり、“福祉”の方ではないのかと大分悩んで仕事をしています。今の仕事をこのまま続けていくのか。少しでも福祉の仕事をやりたい。在学中に学んだ時間を今一度勉強し直し、チャレンジするためにも社会福祉士の資格を取得したい、そう思っています。しかし、勉強する時間がなく、どうしようかと迷っています。働きながらどのように時間をつくっていけばいいのでしょうか。
- ・社会人5年目となりました。2年前に公務員試験に合格して、昨年より夢であった福祉職として現在福祉事務所で働いています。一つ後悔していることがあります。それは社会福祉士の試験に合格していないことです。仕事をしもっての受験勉強は難しく、なんで大学の時にきちんと

と対策して1回で受かる様準備してなかったの
だろうという気持ちです。

- ・社会福祉士国家試験を受ける予定でしたが、就職試験と重なり、受けることができませんでした。現在、保育士として働いているので試験を受けることは考えていません。
- ・次回の試験より新しい試験科目になることを同封の文書で初めて知りました。近くの市社協が社会福祉士を募集していたので、もう一度挑戦しようかと考えていたところでしたが、子どもがおり、せっかくの大学の講座を希望しても遠方のため、受講することは事実上非常に困難と思われる。
- ・今年度は受験できませんが、いずれはしたいと思っています。
- ・国家試験は、1回しか受験していませんが、就職の方が落ち着いたら受験しようと思っている。
- ・一度あきらめました。やはり福祉の仕事に就きたいと考えています。
- ・社会福祉士の資格を早急に取得するというわけではなく、今後取得すべき資格であると考えています。現職の学術研鑽を行いつつ、時間をかけて社会福祉士の資格を取得しようと考えています。
- ・在学時は大変お世話になりました。私は今、子育て支援課で働いています。お近くにこられる際はぜひ遊びに来てください。

その他

- ・今回このようなアンケートが届きとてもうれしく思いました。
- ・大阪大谷大学は先生との距離がとっても近く、アットホームな大学でした。楽しく学べたという思いがあり、これからもアットホームでいてほしいと思いますし、社会福祉の現場で母校の同じ方とお仕事をするのを楽しみにしています。
- ・介護福祉士の資格のカリキュラムがあったほうが良いと思いました。介護職として働いてきた中で、福祉を学ばせて頂いて介護技術以外の面でとても役立っていました。でも、社会福祉士の勉強をしていたことで、介護福祉士の国家試験にも合格できたように思います。もし、介護職に進まれる大学生さんがいたら、介護施設でのボランティアやバイト等もあるので、いろいろ経験された方が良いでしょう。大学での学業も大切ですけど、今の若い人たちは社会常識に少し欠けていると思います。
- ・社会福祉の授業は、わかりやすく、楽しく受けることができ、そのことにより、“さらに深く学びたい”“視野を広げ、知識、技術を身につけたい”という積極的で前向きな考えや行動ができたと思っています。
- ・今思うと、資格取得に必要なだが、現場実習がとても役立っていると思うので、このまま続ける。または、増やしてもよいのでは。
- ・本学卒業生から社会福祉士が増えることを期待しています。

卒業生各位

2009年5月20日
大阪大谷大学教育福祉学部
社会福祉部会

「社会福祉士国家試験受験資格課程卒業生の現況調査」のお願い

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。卒業生の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

大谷女子大学において1999年度に社会福祉専修コースを設置し、社会福祉士国家試験受験資格課程も同時に開設してから11年目を迎えることができました。2008年度は大谷女子大学として最後の卒業生を送り出し、課程では231名の卒業生を数えることとなりました。現在は、社会人としての経験を積み、また、多方面でご活躍されていることと存じます。

昨今の社会保障・社会福祉の変化の中で、2008年に社会福祉士養成課程のカリキュラムが変更され、2010年1月に実施される第22回国家試験より、新しい試験科目で行われます。本学におきましても2009年度入学生より新しいカリキュラムのもとで養成を進めていくことになります。その中で、卒業後も国家試験にチャレンジしている卒業生が数多くいることから、課程の担当者として卒業生に対するサポートの必要性を感じておりました。

そこで、このたび卒業生の現況を把握し、卒業生支援の資料とするため、別紙の通り現況調査を実施することにいたしました。今後、学習機会の提供や卒業生相互の交流・情報交換のネットワークなどとして展開することを考えておりますので、ご協力くださいますようお願いいたします。また、卒業後に住所が変わられた方もいらっしゃるかと思います。身近にそのような方がおられる場合は、お手数ですが「現況調査」のお願いをお知らせくださいますよう、重ねてよろしく願いいたします。

最後になりましたが、皆様のご活躍をご祈念いたします。

連絡先

大阪大谷大学教育福祉学部共同研究室

〒584-8540

大阪府富田林市錦織北3-11-1

TEL 0721-24-1046

Mail : shafuku-c@osaka-ohtani.ac.jp

社会福祉部会担当教員（専門分野）

農野寛治（児童福祉）

神部智司（高齢者福祉）

船本淑恵（障害者福祉）

社会福祉士国家試験受験資格課程卒業生の現況調査

2009年4月1日現在でお書きください。

ふりがな 氏名 (旧姓)	()
卒業年度	年度
現住所	〒
電話番号	
メールアドレス※	

※今後のご案内をメールで送らせていただきたいと思います。パソコンのメールアドレスをご記入いただけると幸いです。

当てはまるものに○をつけてください。また、当てはまる場合は空欄にご記入ください。

イ. 現在、就労していますか？

- 1. していない
- 2. している

→勤務先と職種を教えてください。

勤務先	
職種	

ロ. これまで社会福祉士国家試験を受験したことはありますか？

- 1. ない
- 2. ある

→受験した年を教えてください。複数ある場合はすべてお書きください。

()

ハ. あなたは、社会福祉士資格を取得しましたか？

- 1. 取得した

→試験に合格した年はいつですか？ () 年

- 2. 取得していない

→今後、国家試験の受験を考えていますか？

- ① いない
- ② いる

→本学で行われる社会福祉士国家試験模擬試験の受験を希望しますか？

① 希望しない

② 希望する

→本学で実施する社会福祉士国家試験受験対策講座の受講を希望しますか？

① 希望しない

② 希望する

→講座受講可能な時期や曜日・時間を教えてください。

何月ごろ	
曜日・時間帯	

二. 社会福祉あるいは社会福祉士資格に関して大学に期待することなど、その他ご意見・ご質問等ありましたらお書きください。

ご協力ありがとうございます。

この調査で得られた個人情報は、本学における教育目的以外に使用しないことをお約束します。